

【コラム】

笠森寺観音堂と長南城主・武田豊信

永禄3（1560）年、長南城主・武田豊信は『十六善神図』を寄進しましたが、その箱書に「本堂棟梁サエクサ四郎左衛門作事」とあることから、何らかの理由で失われていた観音堂の再建が始まっており、それには豊信が大きく関わっていたと考えられます。昭和33～35年に行われた観音堂の解体修理時の報告書によれば、岩山に建つ脚部が組まれた後は、その上に建てた仮堂を一定の期間使用し、天正7（1579）年頃から本格的に堂部分の建築が行われたとされています。このことについて、当時の房総では里見氏と北条氏の戦いが相次ぎ、長南武田も里見陣営の武将として、常に北条氏の脅威と対峙していました。そのようなことが観音堂再建に障害となっていたことは想像に難くありません。しかし、天正5（1577）年の相房和睦によって情勢が安定し、豊信は観音堂の再建に力を注ぐことができた、とることができます。観音堂は慶長2（1597）年頃に完成したようですが、天正18（1590）年の豊臣秀吉の小田原征伐により、相房和睦以降は北条氏の国衆となっていた長南武田氏も、すでに北条氏と命運をともにしていたのです。